

# あんな本・こんな本

2022年3月24日発行 No.86

ボランティアによる新着図書・資料案内

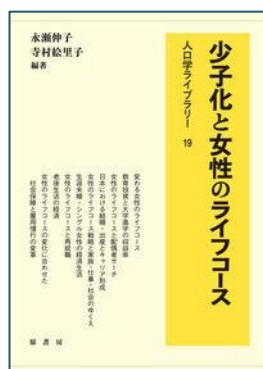
この号では女性教育情報センターに2021年10月～2022年1月に新しく受入れた資料の中から、ボランティアが選んだ本を紹介しします。新着の全資料は下記の文献情報データベースからご覧いただけます。[https://winet2.nwec.go.jp/bunken/cgi/newbook\\_cal/opac\\_newbook\\_cal.cgi](https://winet2.nwec.go.jp/bunken/cgi/newbook_cal/opac_newbook_cal.cgi)

## 読んでみました

### 少子化と女性のライフコース（人口学ライブラリー 19）

永瀬伸子・寺村絵里子編著；原書房 2021年

[リストNo.16]



妊娠すればマタハラ、出産・育休のあとはマミートラック、何とか乗り切ったら「保育園落ちた」、子どもを産む女性の前にはさまざまな障害が立ちふさがる。

政府は何とか少子化の流れを食い止めようと必死だ。育休法、WLB憲章、イクメン・プロジェクト等々。男性の育休取得率も徐々に上がり、子どもを持っても就業継続できる社会になったはずだが…。

本書は10人の気鋭の研究者が、女性の仕事、結婚・出産、老後などの問題に、法や制度、実態調査など多方面から切り込み、女性のライフコースの現状と変容に迫る。その中から印象に残ったトピックをいくつかとりあげてみたい。

#### <「男性稼ぎ主型」社会はもう限界>

1990年代には約3割いた専業主婦願望の女性は2000年代には2割弱に、しかも実際にそうなれると考える女性は2015年では7.5%に過ぎない。一方妻に専業主婦を期待する男性は1987年の4割弱から2015年には1割に減少。男性が一人で家族を養うなど、もう不可能ではないかと本書は示唆する。

#### <格差の拡大—パワーカップルとウィークカップル>

高学歴、正社員、企業福祉もバッチリという恵まれた人は同じような相手と結婚する 경우가多く、ますます有利に（パワーカップル）、一方不安定雇用同士などの「ウィークカップル」は、育休などの法的保護も受けられず、保育園入所も正社員優先などと、ますます不利になる社会システムになっている。

#### <非婚・未婚・離婚—シングル女性の困難>

近年、非婚・未婚の女性が増え（生涯未婚率は2025年には18%超になると予測される）、離婚も急増している。しかし社会福祉制度も年金制度も世帯単位に設計されており、また性別賃金格差が激しい日本では一生経済的不利がついて回る。高齢シングル女性の貧困率は2015年には46.2%にのぼったという。

#### <育児休業給付を受けられた女性はわずか28.3%>

女性の育休取得率は81%を超え、育休法改正によりかなり手厚い育児休業給付もある。しかし、そもそもパートやアルバイトの女性は一部を除いて育休をとることさえ難しく、また、出産退職した人は給付金は1円ももらえない。給付を受けた女性は2010～14年で28.3%に過ぎなかった。

最後に、興味をひかれた結婚にまつわるデータの一つあげておこう。

出生率が回復しているスウェーデン、フランスの未婚女性に「結婚しない理由」を聞いたところ、「必要を感じない」が62.7%、53.6%、日本では「適当な相手に巡り合わない」が53.5%だったという。一人でも子育てできる国と違い、結婚に子育てや老後など人生を委ねることが多い日本では「理想の相手」の要求水準が高いので相手を見つけにくいのではないか、という指摘に納得したのであった。 [YK]

## 111本の木

リナ・シン文；マリアンヌ・フェラー絵；こだまともこ訳；光村教育図書 2021年 [リストNo.8]



インドではごく最近まで、男の子の誕生だけを盛大に祝う習慣があったという。生まれたのが女の子だと家は静まりかえったそうだ。

そのインドのピプラントリ村の村長、スンドルさんにとって何よりの宝というべき娘が生まれた時も、周りは喜ばなかった。残念なことにその娘は大人になる前に死んでしまう。哀しみも共に埋めてしまおうと植えた木の苗が、娘の思い出と共に生き続けてくれると気づいたとき、スンドルさんは「女の子が生まれるたびに111本の木を植えてお祝いしよう」と村の人たちに提案し説得して回った。初めのうちは理解してもらえなかったが、木を植えることによって生活が豊かになり、女の子も学校で学ぶことができるようになると判ると、周りの人たちも手を携えてゆく。その村の木の幹には綺麗な糸が幾重にも巻かれ、一本一本が大切にされているという。約25万本もの木が植えられ、緑豊かな土地へと生まれ変わった村の、本当にあったお話である。

後書きには、“フェミニズムの考え方とエコロジーの考え方を結びつけて活動するエコフェミニズム啓発のための本”とあるが、ジェンダー、環境、SDGs…工夫如何で広範囲に活用できる資料である。[MN]

## アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？：これからの経済と女性の話

カトリーン・マルサル著；高橋璃子訳；河出書房新社 2021年

[リストNo.15]

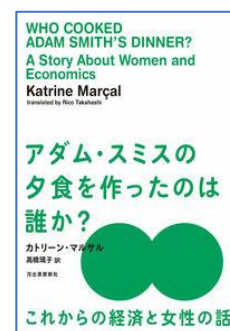
経済合理性にのみに基づいて利益を追求する、それが「経済人（ホモ・エコノミクス）」だ。性別は男。彼らの利己心が経済を発展させ、結果的にみんながハッピーになる、アダム・スミスはそういった。しかし、利己心だけが経済発展の原動力なのか？ 経済人が金儲けに専念できたのは彼の妻や母が損得抜きで食事を作ってやったからではないか？ また、世の中には1円のトクにもならないのに他人に尽くす人もいるし、デマ一つで経済が動くことさえある。経済人理論は欠陥だらけだ。その証拠に歴史はアダム・スミスの予測通りには動かなかったではないか。そこで経済学者たちはこの理論にあれこれ修正を加えてきた。ケインズ主義、新自由主義などである。

著者はジャーナリストの視点でユーモアを交えつつもシビアにこれまでの経済学を批判する。主な論点は二つ。一つは「女性不在」である。「女のする<雑用>など経済ではない」という思考が、女性労働差別やケア労働が直面する困難の要因になっているのだ、と。もう一つは20世紀後半から世界経済をリードしてきた新自由主義だ。福祉削減、貧乏なのは自己責任、こんな経済学が人を幸福にするだろうか？ 様々なエピソードに笑い、怒りながら経済学を身近なものとして学ぶことができた。

最近、本書の言説が実感できるようなニュースに出会った。上位1%の富裕層が世界の個人資産の38%を所有する一方、下半分の50%には2%しか配分されないというのだ（共同通信2021.12.26 配信）。

新自由主義はついに世界をこんな格差と分断の社会にしてしまったようである。

[YK]



## 私は男でフェミニストです

チェ・スンボム著；金みんじょん訳；世界思想社 2021年

[リストNo.24]



チェ・スンボム、1984年生まれ、高校教師、男。女性たちの意識が高まり声を上げていく中、男のフェミニストが堂々と本著を出版し話題になった。韓国社会では、男性のフェミニストに対する反応は「男なのになぜ」と理解されない。著者がフェミニズムに目覚めるのは母の人生から。典型的な家父長制の下、誰かの妻、嫁、母という存在でしかなく、一人の女性としての人生は無いに等しい。彼は「男をフェミニズムにする最初の地点は、母の人生に対し、自責の念を抱くことにある」と言う。ただ漠然と母の生き方に疑問に感じていただけだった彼が、大学生になって周囲の人たちの影響や社会の理不尽さに目を向け、フェミニズムを学ぶことで、フェミニストの道を歩み始めた。

そして、男子高校の教師となり、理解を得られそうな同僚に考えを広め、一方では高校生に啓発活動を進めていった。特設の授業を開設したり、声高に叫んだりするのではなく、国語教師という立場で文学教材を扱う際、必ずジェンダー／フェミニズムの視点を持って、社会的不条理に気がつくよう指導し、関連書物を身近に揃え、感受性の強い高校生に浸透していくよう図った。

本書は、韓国社会で如何に女性が不利益な立場にあるか、様々な場面での事例が、具体的に数値化して分かりやすく解説されている。本書がフェミニズム入門書といわれる所以である。[CO]

2021年10月～2022年1月 に情報センターが新たに受入れた図書からボランティアが選んだ本です。

	書名・副題 / 著者・編著者名	出版社	出版年月	請求番号
1	性差 (ジェンダー) の日本史 「性差の日本史」展示プロジェクト編	集英社インターナショナル	2021.10	210.1/J36
2	声をあげて、世界を変えよう!: よりよい未来のためのU (アンダー) 30の言葉 アドーラ・スヴィタク著; カミラ・ピンヘイロイラスト; 長尾莉紗訳	DU BOOKS	2021.10	280/Ko22
3	ニュージーランドアーダーン首相: 世界を動かす共感力 マデリン・チャップマン著; 西田佳子訳	集英社インターナショナル	2021.11	289/N99
4	オードリー・タン母の手記『成長戦争』: 自分、そして世界との和解 近藤弥生子著	KADOKAWA	2021.11	289.2/O17
5	ルース・B・ギンズバーグ名言集: 新しい時、新しい日がやってくる ルース・B.ギンズバーグ[著]; 岡本早織訳	創元社	2021.11	289.3/R89
6	世界を救うmRNAワクチンの開発者カタリン・カリコ 増田ユリヤ著	ポプラ社	2021.10	289.3/Se22
7	「日本」ってどんな国?: 国際比較データで社会が見えてくる 本田由紀著	筑摩書房	2021.10	302.1/N71
* 8	111本の木 リナ・シン文; マリアヌ・フェラー絵; こだまともこ訳	光村教育図書	2021.1	302.25/H99
9	個人的なことは社会的なこと 貴戸理恵著	青土社	2021.9	304/Ko39
10	プロテストってなに?: 世界を変えたさまざまな社会運動 アリス&エミリー・ハワース=ブース著; 糟野桃代翻訳	青幻舎インターナショナル	2021.9	309/P97
11	Youthquake: U30世代がつくる政治と社会の教科書 No Youth No Japan編著	よはく舎	2021.10	312.1/Y94
12	夫婦別姓: 家族と多様性の各国事情 栗田路子 [ほか] 著	筑摩書房	2021.11	324.6/F53
13	「選択的」夫婦別姓: IT経営者が裁判を起こし、考えたこと 青野慶久著	ポプラ社	2021.11	324.6/F53
14	矯正という仕事: 女性初の法務省矯正局長37年間の軌跡 名執雅子著	小学館集英社プロダクション	2021.11	327.8/Ky5
* 15	アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?: これからの経済と女性の話 カトリーン・マルサル著; 高橋璃子訳	河出書房新社	2021.11	331/A16
* 16	少子化と女性のライフコース (人口学ライブラリー 19) 永瀬伸子, 寺村絵里子編著	原書房	2021.8	334.3/Sh96
17	格差と分断の社会地図: 16歳からの「日本のリアル」 石井光太著	日本実業出版社	2021.9	361.8/Ka28
18	働くことを通して考える共生社会 村木厚子著	日本経済評論社	2021.8	366.3/H42
19	ワーキングマザーで行こう!: 子どもが伸びる、自分も輝く生き方のススメ 原田諭貴子著	みらいパブリッシング	2021.8	366.3/W33
20	ワーク・ファミリー・バランス: これからの家族と共働き社会を考える 高橋美恵子編	慶應義塾大学出版会	2021.10	366.7/W35
21	フェミニズムに出会って長生きしたくなった。 アルティシア[著]	幻冬舎	2021.8	367.2/F18
22	ジェンダー視点で学ぶ女性史 澤田季江著	日本機関紙出版センター	2021.8	367.21/J48

23	ルポコロナ禍で追いつめられる女性たち：深まる孤立と貧困 飯島裕子著	光文社	2021.9	367.21/R86
* 24	私は男でフェミニストです チェ・スンボム著；金みんじょん訳	世界思想社	2021.11	367.221/W45
25	二重に差別される女たち：ないことにされているブラック・ウーマンのフェミニズム ミッキ・ケンダル著；川村まゆみ訳	DU BOOKS	2021.9	367.253/N73
26	ミルクとコロナ = milk+corona 白岩玄, 山崎ナオコーラ著	河出書房新社	2021.10	367.3/Mi49
27	マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か：#MeTooに加われない男たち 杉田俊介著	集英社	2021.9	367.5/Ma32
28	あいつゲイだって：アウティングはなぜ問題なのか？ 松岡宗嗣著	柏書房	2021.12	367.9/A25
29	ALLYになりたい：わたしが出会ったLGBTQ+の人たち 小島あゆみ著	かもがわ出版	2021.9	367.9/A41
30	10代の妊娠：友だちもネットも教えてくれない性と妊娠のリアル にじいる著；高橋幸子監修	合同出版	2021.12	367.9/J88
31	考えたことある？性的同意：知らないってダメかも P・ワリス, T・ワリス作；J・ウィルキンズ絵；上田勢子訳	子どもの未来社	2021.9	367.9/Ka54
32	子どもを育てられるなんて思わなかった：LGBTQと「伝統的な家族」のこれから 古田大輔編；杉山文野, 松岡宗嗣, 山下知子著	山川出版社	2021.9	367.9/Ko21
33	男の子みたいな女の子じゃいけないの？：トムボーイの過去、現在、未来 リサ・セリン・デイヴィス著；上京恵訳	原書房	2021.10	367.9/O86
34	女性ホームレスとして生きる：貧困と排除の社会学(増補新装版) 丸山里美著	世界思想社	2021.9	368.2/J76
35	わたしは黙らない：性暴力をなくす30の視点 合同出版編集部編	合同出版	2021.10	368.6/W47
36	ノーベル文学賞が消えた日：スウェーデンの#MeToo運動、女性たちの闘い マティルダ・ヴォス・グスタヴソン著；羽根由訳	平凡社	2021.9	368.64/N91
37	子ども介護者：ヤングケアラーの現実と社会の壁 濱島淑恵[著]	KADOKAWA	2021.9	369/Ko21
38	世界を変えた10人の女性科学者：彼女たちは何を考え、信じ、実行したか キャサリン・ホイットロック, ロードリ・エバンス著；伊藤伸子訳；大隅典子解説	化学同人	2021.8	402/Se22
39	ジェンダーと脳：性別を超える脳の多様性 ダフナ・ジョエル, ルバ・ヴィハンスキ著；鍛原多恵子訳	紀伊國屋書店	2021.9	491.3/J36
40	がんをデザインする 中島ナオ著	ニジノ絵本屋	2021.10	494.5/G19
41	#生理の貧困：#PeriodPoverty #みんなの生理(福井みのり)[ほか]執筆	日本看護協会出版会	2021.11	495.13/Se19
42	スポーツの世界から暴力をなくす30の方法：もう暴言もパワハラもがまんしない！ 土井香苗, 杉山翔一, 島沢優子編	合同出版	2021.9	780/Su75



\*印の本は

読んでみました

に感想文を掲載しています。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

国立女性教育会館 (NVEC) ☎ 0493-62-6195

ボランティアルーム内「あんな本こんな本」担当